



令和4年3月1日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎晃二

開四小だより

3月号

自分の考えをもち、言葉で伝え合う

校長 河崎晃二

今年度も残り17日間となりました。4月になると子供たちはそれぞれ学年が上がり、6年生はいよいよ中学生です。桜の芽が膨らみ、春の開花の準備をするように、子供たちも4月から自信をもってスタートできるように準備をしています。

※

さて、表題の「自分の考えをもち、言葉で伝え合う」は、開進第四小学校の今年度の研究主題です。国語科の授業を通して研究授業を行いながら進めてきました。コロナ禍ということで、授業の様子をビデオで撮影したり、体育館で行ったりして工夫しながら研究協議を行ってきました。

先日北京オリンピックが開催されましたが、子供たちの取り巻く環境は、ますます外国の方と身近に接する機会が多くなってきます。人は生まれた環境や育った状況によって「考え方」や「物事の価値判断」が違ってきます。ですから、自分の考えや思いを相手に伝えることがとても重要になります。

また、学びの過程において多様な人との対話を通じて考えを広げることが重要とされています。授業の中では、友達と意見交換をしたり、議論をしたりします。学習内容によっては、友達だけではなく、大人と対話することもあります。

この「自分の考えをもち、言葉で伝え合う」ことは、学校の学習だけでなく、日常生活においても何か困ったことや問題が起きたときに、解決するための力の一つとなります。私達は低・中・高学年の3つの分科会に分かれて、目指す児童像に向けて手立てを考え、以下の取組を行ってきました。

低学年：順序を考えて伝えられる子 ⇒ 自分の考えをもち、根拠をもって伝えられる子

中学年：相手を意識して、筋道を考えて伝えられる子 ⇒ 文章を読んで考えたことを、筋道を考えて伝えられる子

高学年：自分の考えをもち、言葉で伝え合える子 ⇒ すすんで伝え合い、自分の思いや考えを広げられる子

具体的には、低学年では「話し方名人」「聞き方名人」を示し発言の際に意識させたり、「言葉の宝箱」を活用して語彙力を高めたりして日常的に取り組んできました。中学年では、自分の思いや考えを「ウェビングマップ」を活用して視覚的にとらえ、話し合いやまとめに活用するようにはしてきました。高学年では、「思考ツール」を活用して季節の俳句作りをしました。そして、よりよい俳句にいくために3人で交流し自分の思いを伝えたり、表現や方法について検証したりしました。

取組はこれだけではありませんが、この1年間で自分の考えや思いを伝え合うことが、大分できるようになってきました。引き続き、よりよい伝え合いができるよう研究をすすめてまいります。